

在宅生活を迎えて ～退院後の在宅生活の現状～



通所リハビリテーション

○宮國すみえ 奥濱香織

他スタッフ一同

【はじめに】

- 退院後の在宅で生き生きとした生活をおくるには、家族の理解と支援が最も重要である。生き生きとした在宅生活をおくるため、生活環境や家族背景など様々な観点から包括的且つ長期的なアプローチが必要とされる。

【目的】

利用者家族の在宅介護状況を把握し、
より良い在宅生活をおくれるよう支援する！！

【調査方法】

★在宅生活★

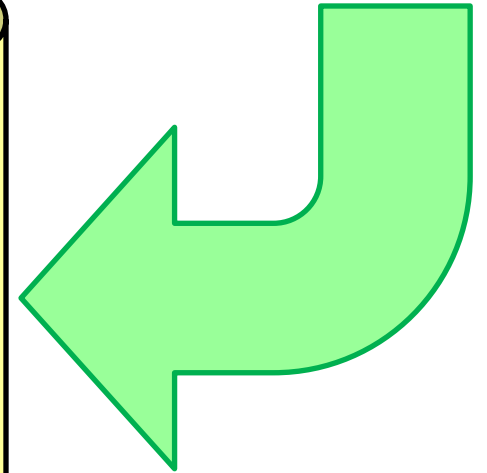
対象

利用者50世帯の家族

方法

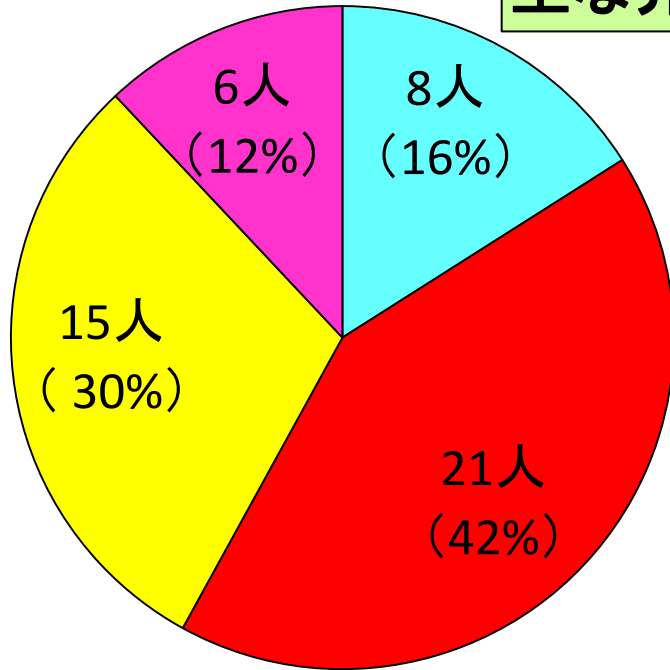
聞き取り式アンケート

- ① 主な介護者と人数
- ② 困っている事・悩みについて
- ③ 在宅生活での利用者の変化
- ④ その他意見



【結果①】

主な介護者



夫 妻 子 嫁

《一世帯当たりの介護者人数》

1人 (単独)	28世帯	56%
2人	14世帯	28%
3人	6世帯	12%
4人以上	2世帯	4%

○配偶者が介護をしているケースが最も多い。

○平均年齢：配偶者⇒平均74歳。子や嫁⇒平均55歳。

○主な介護者⇒50世帯中38世帯が女性である。

一世帯当たりの介護者も単独で介護をしているケースが半数以上で、介護者の負担が明らかになっている！！

【結果②】

困っている事・
悩んでいる事

ある！

38世帯(76%)

排泄:17人
食事:10人

ない！

介護負担・
ストレス:36人

介護者の
不安:15人

環境:13人
その他:6人

12世帯(24%)

困っていると答えた世帯の介護度別状況！！

介護度1	5人中 3人	60%
介護度2	13人中10人	77%
介護度3	15人中13人	87%
介護度4	11人中 9人	82%
介護度5	6人中 3人	50%

仕方無い。
慣れている。
寝たきりだから負担が無い。

【結果③】

★入院中との変化がありますか！？

ある！	41世帯 (82%)	良い変化⇒28世帯(68%)
		良くない変化⇒13世帯 (32%)
ない！	9世帯(18%)	

『活気が出てきた』
『レベルUPした』
『落ち着いてきた』

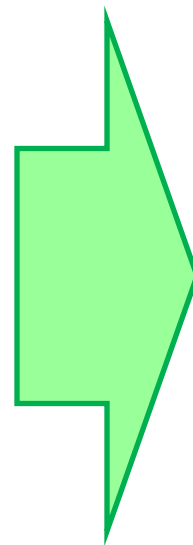
『レベルが低下した』
『介護量が増えた』
『意欲が低下した』

★その他意見…

- 他の家族との情報交換や交流がしたい。
- プリントや資料が欲しい。
- 自宅状況を見に来て欲しい。
- 在宅でのリハビリや介護方法などが知りたい。 など…

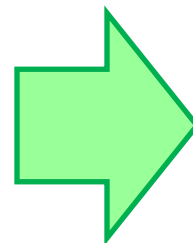
【考察①】

主な介護者結果から：	58%が配偶者 平均年齢(74歳)
	75%が女性
	仕事や自分の生活と 介護の両立



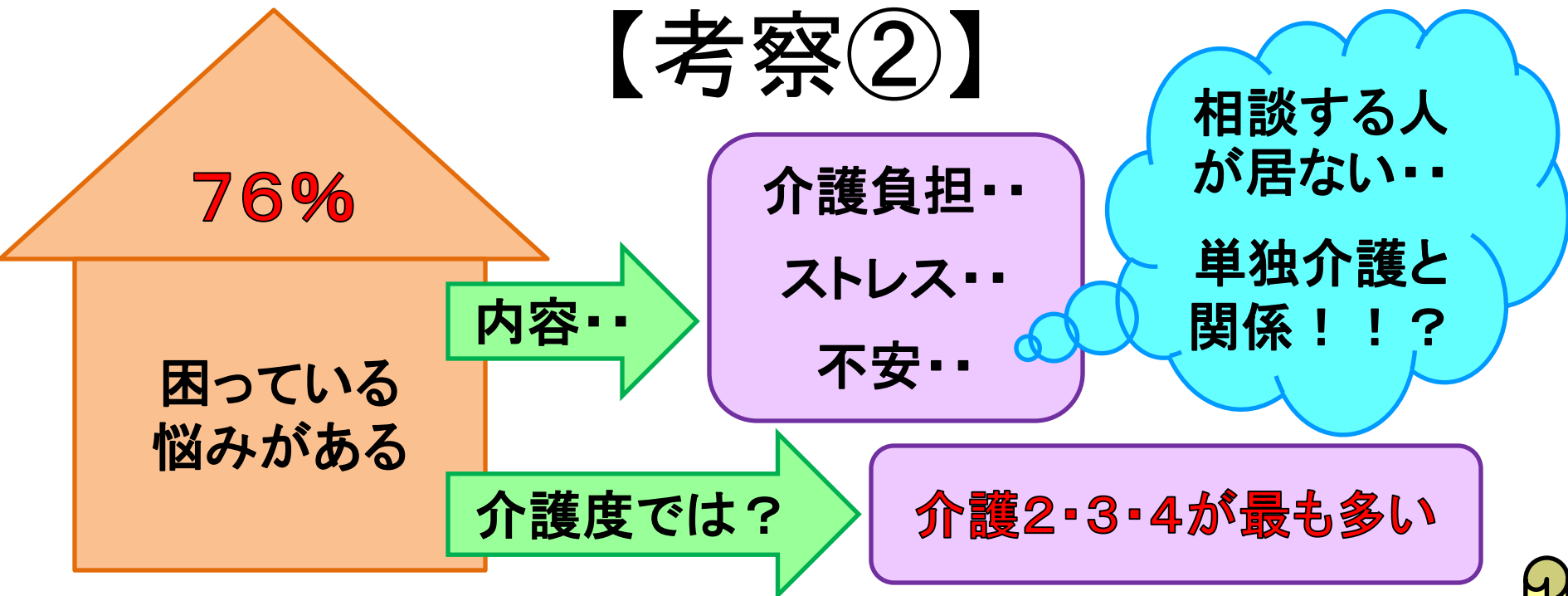
老々介護の 現状！！
身体的 負担・・・
負担・・・ ストレス

介護者人数	半数以上が 1人(単独介護)
-------	-------------------



●相談相手が 居ない・・・
●精神的ストレス

【考察②】



『残存機能を生かした介助法が分からない...全介助になる...』

介護度2・3・4は脳血管障害の方が多く自分で思うように出来ない事で、**苛立ち**や、家族に対しての**甘え・こだわり**もあり、介護者の**精神的なストレス**に大きく関係していると考える。

★在宅と事業所での介助方法に違いがあり、家族との**情報共有・交換**が必要と考える。

【考察③】

在宅生活は**良い**
変化をもたらす事
が確認できた！

加齢による体力
低下。甘え・依存
してしまうケース
が確認できた！

在宅復帰後**変化があった！**

68%が
『活気が出てきた』
『レベルUPした』
『落ち着いてきた』

32%が
『レベル低下』
『介護量の増加』
『意欲低下』

その他の意見で、家族が介護に対し**知りたい事や学びたい事も多く**、在宅介護に対し**意欲的**である事が分かった。

【まとめ】

在宅生活を支援するには…

在宅状況
の把握！



情報の
共有！

が…重要である!!!

安全で安心
な在宅生活

今後の課題！

介護者の
負担軽減

在宅と事業所での情報の共有・
交換の方法を検討する